

# 第1章 国語

第1	教科目標，評価の観点及びその趣旨	国 - 1
第2	各科目の評価の観点の趣旨	国 - 1
第3	必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例	国 - 3
	国語表現	国 - 3
	国語総合	国 - 5
第4	単元の評価に関する事例	国 - 9
	国語表現	国 - 9
	国語総合	国 - 19

## 第2編 各教科における評価規準の作成，評価方法の工夫改善

### 第1章 国語

#### 第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

##### 1 教科目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力を伸ばし心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

##### 2 評価の観点及びその趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図り，進んで表現したり理解したりするとともに，伝え合うとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして，目的や場面に応じ，筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして，相手や目的に応じ，筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら，目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立つための音声，文法，表記，語句，語彙，漢字等を理解し，知識を身に付けている。

観点別学習状況の評価の観点は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点を基本としている。各教科の観定の具体的な示し方については，それぞれの教科の目標や内容を考慮して定められている。国語の場合，言語で考えて表現したり，理解したりすることが基本的な学習活動である。そのため，言語による「思考・判断」と，言語の「技能・表現」とは密接，不離の関係であり，個々に分けて評価することは困難である。そこで，国語においては，従来から，4観定のうち「思考・判断」「技能・表現」の2観定について，生徒の目標の実現状況をより適切に評価するため，国語科の領域ごとの能力の観点として再編して示され，従前の学習指導要領のもとでは，「表現の能力」「理解の能力」となっていた。今回この考え方を継承しているが，高等学校国語の領域構成が変更されたことを踏まえ「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の3観定で構成することとなった。したがって，評価の観点としては「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の上記5観定となる。

#### 第2 各科目の評価の観定の趣旨

	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語表現	国語に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図り，進んで表現するとともに，伝え合うとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして，目的や場面に応じ，筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして，相手や目的に応じ，筋道を立てて適切に文章に書く。		表現と理解に役立つための音声，文法，表記，語句，語彙，漢字等を理解し，知識を身に付けている。
国語表現	国語に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図り，進んで表現するとともに，伝え合うとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして，目的や場面に応じ，筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして，相手や目的に応じ，筋道を立てて適切かつ効果的に文章に書く。		表現と理解に役立つための音声，文法，表記，語句，語彙，漢字等を理解し，知識を身に付けている。

国語総合	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
現代文	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりしようとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて近代以降の様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
古典	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、進んで古典に親しもうとする。			古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	古典の理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
古典講読	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重して、生涯にわたって古典に親しもうとする。			古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、生活や人生について考え、古典に親しむ。	古典の理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

### 第3 必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

#### 国語表現

##### 1 目標

国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

##### 2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
国語に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現するとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

##### 3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

「国語表現」においては、学習指導要領の内容が領域別ではなく総合的に示されているため、その全体を「内容のまとめり」として評価規準を作成した。なお、「国語表現」は「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」を中心として内容が構成されているため、能力の観点は、「話す・聞く能力」及び「書く能力」の2観点のみとなる。

#### 【学習指導要領の内容】

- ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合ったりすること。
- イ 情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること。
- ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。
- エ 様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てること。
- オ 国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めること。

#### 【評価規準】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫したり、様々な表現についてその効果を吟味し自分の表現や推敲に役立てたりして、話したり文章にまとめたりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもって論理的に意見を述べている。</li> <li>・相手の考えを尊重して話し合っている。</li> <li>・目的や場に応じて、言葉遣いなど表現を工夫して話している。</li> <li>・話すことに役立てるために、様々な表現についてその効果を吟味している。</li> <li>・表現効果について吟味したことを話すことに役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くために必要な情報を収集、整理している。</li> <li>・収集、整理した情報を正確かつ簡潔に伝える文章にまとめている。</li> <li>・目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して書いている。</li> <li>・書くことに役立てるために、様々な表現についてその効果を吟味している。</li> <li>・表現効果について吟味したことを、自分の書くことや推敲に役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の表現の特色について理解している。</li> <li>・語句や語彙の成り立ちについて理解している。</li> <li>・現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割などについて理解している。</li> </ul>

【評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いをするとき、相手の立場や考えなどに配慮しながら自分の考えを相手に伝えたり、論点の明確さや主張の妥当性などに注意しながら相手の話を聞いたりしようとしている。</li> <li>・ 文章を書くとき、目的や相手に応じた言葉遣いや表現となっているかを常に確かめながら書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察したことや調査したことを報告するとき、課題となる事柄について、事実を資料に当たって調べて整理し、自分の意見を述べている。</li> <li>・ スピーチや発表などをするとき、自分の意見の根拠を箇条に分け、考えの順序をたどって説明したり、結論をまとめて表現したりするなど、相手に分かりやすく話す工夫をしている。</li> <li>・ 話し合いをするとき、相手の意図を確かめるために質問したり、相手の考えの要点をメモしたりして、相手と自分の共通点や相違点について考えながら聞いている。</li> <li>・ 案内、紹介、連絡などのために話をするとき、相手や目的、場の状況に応じて、待遇表現の選択や音声の使い方などを工夫している。</li> <li>・ 話し合いをするとき、話し手が自分の話す目的を達成するために意図的に用いている言葉の効果や、表現全体を構成する上で発揮している表現技法や修辞の効果などについて分析、検討している。</li> <li>・ 放送番組や友達の話の中の様々な表現を聞くとき、客観的に聞いて、互いに吟味し合い批評し合っている。</li> <li>・ 話をするとき、表現の多様性の効果について分析、検討した結果を生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材を選ぶとき、印刷物、マス・メディア、情報通信ネットワークなどから収集した情報の内容を的確に理解したり、情報の正誤、適否などを判断したりして、適切に選択、整理している。</li> <li>・ 記録、報告などを書くとき、収集、整理した情報を伝えるために、間違いなく文章にまとめている。</li> <li>・ 案内文などを書くとき、目的に応じた情報を選択し、相手に応じた用語や待遇表現の選択など言葉遣いを工夫している。</li> <li>・ 連絡文などを書くとき、目的や場に応じた言葉や文章形式の選択、用いる媒体に応じた文章の種類や文形態の選択など、文体を工夫している。</li> <li>・ 文章を書くとき、様々な文章に接して、その表現が、どのように個性を発揮したり目的を達成したりしているかについて、表現技法や修辞などの観点から分析、検討している。</li> <li>・ 調査したことを報告書などにまとめるとき、自分の表現を客観的に見直したり、お互いの文章を批評し合ったりしている。</li> <li>・ 文章をまとめるとき、様々な表現の効果について分析、検討した結果を生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音韻について、各音節（拍）が、原則的に子音と母音との規則的な組み合わせから成ることについて理解している。</li> <li>・ 語句や語彙の特色として、和語、漢語、外来語という語種があることなどを理解している。</li> <li>・ 表現者の意図や心情を直接表現する助詞、助動詞などの要素が、多くは文の末尾に現れていることについて理解している。</li> <li>・ 漢語や外来語の流入、定着という語彙の歴史的な経過について理解している。</li> <li>・ 現代社会において、言語がどのような役割や問題点をもっているのか、言語が文化の発展にどのようなかかわっているのかなどについて理解している。</li> <li>・ 主な常用漢字について、文脈に応じた適切な使い方を身に付けている。</li> </ul>

国語総合

1 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 評価の観点の趣旨

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

「国語総合」においては、学習指導要領の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

〔言語事項〕については、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」の各内容のまとめりの中に、関連する事項を含めた。

(1) 「A話すこと・聞くこと」

【学習指導要領の内容】

- ア 様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと。
  - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「A話すこと・聞くこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題を解決したり考えを深めたりするために、目的や場に応じて、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べている。</li> <li>・ 目的や場に応じて効果的に話している。</li> <li>・ 目的や場に応じて的確に聞き取っている。</li> <li>・ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどを理解している。</li> <li>・ 文や文章の組立て、語句の意味、用法などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。</li> <li>・ 国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。</li> </ul>

【「A話すこと・聞くこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いをするとき、自分の考えをもちるとともに、他の人のものの見方や考え方を的確に聞き取って、課題の解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 報告や発表などをするとき、身の回りの事柄などの中から、様々な問題を見付け、その問題について情報を収集し活用して、それをもとに自分なりの考えを、言葉で論理的に組み立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気楽な場面、改まった場面、電話など、場面や目的に応じた話し方や言葉遣いを身に付けている。</li> <li>・ 同訓異義語や同音異義語、敬語について理解している。</li> </ul>

<p>決や思考の深化を図ろうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーチや説明などをするとき、話す相手を意識し、適切な話題を選び、話し方を工夫することによって分かりやすく伝えている。</li> <li>・聞くときに、話題、話し手の意図、考えの進め方、強調点などをとらえ、必要なことを聞き取り、話し手に対し、確認したり質問したりしている。</li> <li>・課題を解決したり考えを深めたりするために、話合いや討論などに参加するとき、学校図書館や情報通信ネットワークなどを活用して調べたり、相手の立場や考えをできるだけ尊重して、様々な意見を聞き合ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の歴史的な成り立ちと変遷について理解している。</li> </ul>
--------------------------	---	--

(2) 「B書くこと」

【学習指導要領の内容】

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと。
- イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること。
  - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「B書くこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手や目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり、効果的な表現を考えて書いたりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手や目的に応じて題材を選んでいる。</li> <li>・ 相手や目的に応じて効果的な表現を考えて書いている。</li> <li>・ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめている。</li> <li>・ 書くことに役立てるために、優れた表現に接してその条件を考えている。</li> <li>・ 優れた表現を自分の表現に役立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。</li> <li>・ 主な常用漢字について、適切な使い方を身に付けている。</li> <li>・ 国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。</li> </ul>

【「B書くこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何のために、だれに向かって、どのような条件で書くのかを考え、その相手や目的にふさわしい材料を収集、選択し、用語や文章の組立てなどを工夫して書こうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章を書くとき、相手や目的に応じた題材を選び、それにふさわしい材料を、自分自身の体験や思索ばかりでなく、読書や調査、観察などで得て、その取捨選択を行っている。</li> <li>・ 文章を書くねらいを達成するため、主張を明確にし、論点を整理して配列を考え、適切な語句を選ぶなど、表現に様々な工夫を凝らしたり、推</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主語、述語、修飾語などの文の成分の順序や照応関係について理解している。</li> <li>・ 段落を設けることによって、述べたいことを効果的に表現できることを理解している。</li> <li>・ 漢字の使い方、仮名遣い、送り仮名の付け方、外来語の表記、平仮</li> </ul>

	<p>敵を重ねたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題についての報告などを書くとき、学校図書館等を活用して必要な情報を収集、整理し、事実や事柄をしっかりとらえ、それを相手にきちんと伝えるため、客観的に表現している。</li> <li>・ 説明や意見などを書くとき、自分の考えを相手に納得させるために、内容を明確に示し、組立てのしっかりした文章を書いている。</li> <li>・ 優れた文章を分析、吟味するとき、発想の豊かさ、構成の着実さ、修飾語と被修飾語の適切な関係、読み手を意識した適切な用語や引例などについて着目している。</li> <li>・ 文章を書くとき、優れた文章を分析、吟味した成果や、様々な表現から読み取った発想や構成の特色などを生かしている。</li> </ul>	<p>名と片仮名の使い分け、句読点や各種の符号の使い方、改行や引用の仕方などの表記全般について、その知識や技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な常用漢字について、文脈に応じた適切な使い方を身に付けている。</li> <li>・ 国語の歴史的な成り立ちと変遷について理解している。</li> </ul>
--	---	--

(3) 「C読むこと」

【学習指導要領の内容】

- ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。
- イ 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること。
  - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【「C読むこと」の評価規準】

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な文章について、叙述に即して内容を的確に読み取ったり、表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。</li> <li>・ 必要に応じて文章の内容を要約している。</li> <li>・ 文章を読んで、構成を確かめている。</li> <li>・ 文章を読んで、表現の特色をとらえている。</li> <li>・ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。</li> <li>・ 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。</li> <li>・ 常用漢字の読みを理解している。</li> <li>・ 文語のきまり、訓読のきまりなどについて理解している。</li> <li>・ 国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。</li> </ul>

【「C読むこと」の評価規準の具体例】

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典や近代以降の様々な文章を読んで、表現の意図や特色をとらえようとしたり、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、社会、自然などに対して自分なりの考えをもとうとしたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文脈を考えながら、語句や表現に注意して、書き手の考えなどをとらえている。</li> <li>・ 文章の要点を押さえながら、書き手が述べようとしていることを簡潔にまとめている。</li> <li>・ 文章の組立てを確かめたり、段落相互の関係を読み取ったりしながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。</li> <li>・ 文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。</li> <li>・ 古典や近代以降の様々な文章に描かれている人物の心情や情景をとらえ、音読や朗読などを取り入れながら読み味わっている。</li> <li>・ 様々な文章を読むことで、書き手の主張や文章の内容をとらえ、共感、疑問、思索などを通して思考力を高め、自分なりの考えを深めている。</li> <li>・ 学校図書館等を利用することを通して、読書力を高めるとともに、必要な情報を収集、選択し、その価値などを読み取り活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語句について、その意味や文脈の中での使われ方を理解している。</li> <li>・ 単語、複合語や連語、慣用句などについて理解している。</li> <li>・ 常用漢字について、その音訓を理解し、文脈に応じた適切な読み方を身に付けている。</li> <li>・ 現代語と異なる歴史的仮名遣いや活用の違い、主な助詞、助動詞等の意味、用法、係り結び、敬語法の大体について理解している。</li> <li>・ 漢文の訓読に必要な返り点、送り仮名、句読点などに関するきまりについて理解している。</li> <li>・ 国語の歴史的な成り立ちと変遷について理解している。</li> </ul>

#### 第4 単元の評価に関する事例

ここでは、指導と評価の工夫を行った事例として、「国語表現」と「国語総合」について、計3事例を紹介するとともに、紹介した事例について解説する。

なお、各事例においては「おおむね満足できると判断される」状況(B)を示す評価規準に照らして、それが実現していないものを「努力を要すると判断される」状況(C)、高まりや深まりが見られるものを「十分満足できると判断される」状況(A)と評価している。

##### 国語表現

ここでは、「話すこと・聞くこと」の事例を紹介する。

単元名 「グラフやデータを読み取って、自分の意見を発表する」(4時間)

##### 1 単元の目標

- (1) 目的や場に応じた表現を工夫して自分の考えを話そうとする態度を身に付ける。(関心・意欲・態度)
- (2) 自分の考えをもち、聞き手に理解してもらえるよう論理的に話す。(話す・聞く能力)
- (3) 国語の表現の特色について理解したり、音声表現の技法について理解したりする。(知識・理解)

参考：単元の目標を設定するために

「国語表現」においては、「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の指導を、相互の関連を図りながら効果的に行うことが大切であるが、このような関連を図るためには、それぞれの独自の内容の指導がまず的確になされる必要がある。そこで、本事例では、「話すこと・聞くこと」の独自の内容を重点的に指導することとした。

次の、は、内容のまとめりとしての「国語表現」全体の学習指導要領の内容(指導事項)を「話すこと・聞くこと」に重点化し、単元の目標を設定していく道筋を示している。

重点的に指導する「話すこと・聞くこと」にかかわる学習指導要領の内容とその評価規準

##### 【学習指導要領の内容】

- ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり相手の考えを尊重して話し合ったりすること。
- ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。
- エ 様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てること。
- オ 国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めること。

##### 【評価規準】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫したり、様々な表現についてその効果を吟味し自分の表現や推敲に役立てたりして、話したり文章にまとめたりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをもって論理的に意見を述べている。</li> <li>・相手の考えを尊重して話し合っている。</li> <li>・目的や場に応じて、言葉遣いなど表現を工夫して話している。</li> <li>・話すことに役立てるために、様々な表現についてその効果を吟味している。</li> <li>・表現効果について吟味したことを話すことに役立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の表現の特色について理解している。</li> <li>・語句や語彙の成り立ちについて理解している。</li> <li>・現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割などについて理解している。</li> </ul>

「国語表現」は、「第3 必履修科目における内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例」において、科目全体を内容のまとめりととらえているが、ここでは、この単元で重点的に指導する「話すこと・聞くこと」にかかわる学習指導要領の内容とその評価規準のみを掲げた。

この単元で取り上げる指導事項を含む学習指導要領の内容とその評価規準

##### 【学習指導要領の内容】

- ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり相手の考えを尊重して話し合ったりすること。
- オ 国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めること。

【単元の評価規準】

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫し、自分で表現しようとしている。	・自分の考えをもって論理的に意見を述べている。	・国語の表現の特色について理解している。 ・現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割などについて理解している。

ここでは、 に掲げたもののうち、この単元で具体的に取り上げる指導事項を含む学習指導要領の内容とその評価規準のみを掲げた。

この単元では、内容のAの前半部「自分の考えをもって論理的に意見を述べ」と、内容のオの一部「国語の表現の特色」と「言語の役割」についての理解を踏まえて単元の目標を設定している。したがって、【単元の評価規準】については、 に示した【評価規準】から、この目標にかかわるものを選択して示している。

2 学習活動における具体的評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
目的や場に応じて、表現を工夫して自分の考えを話そうとしている。	情報を整理して自分の考えをもっている。 自分の意見を筋道立てて述べている。 発表者の意見を的確に聞いている。	声の大きさ・発声・話の速度・強弱、身振り手振り・姿勢、言葉遣いなどの発表の方法について理解している。

ここでは、1の参考 に掲げた【単元の評価規準】をもとに、この単元における具体的な評価規準を設定して示している。

3 指導と評価の計画

時間	各時間の目標	学習活動	学習活動における具体的評価規準との関連	評価方法等の
1	・単元の目標を理解し、自分の考えをもつ。  ・聞き手を意識した発表を行うための構想を練る。	・グループで資料を分析して問題点を見付ける。  ・見付けた問題点について自分の考えをまとめる。	「関心・意欲・態度」  「話す・聞く能力」	行動の観察 ワークシートの記述の点検  ワークシートの記述の点検
2	・聞き手に分かりやすい発表内容について考える。 ・聞き手を意識した発表の方法について考える。	・グループで発表の組立てや表現について話し合い、発表メモを作成する。 ・聞き手に分かりやすいように補助資料を作成しながら、論理的に意見を述べる準備をする。 ・グループでリハーサルを行い、効果的な発表について考える。	「話す・聞く能力」  「話す・聞く能力」	行動の観察  行動の観察 ワークシートの記述の分析
3	・聞き手を意識した分かりやすい発表をする。 ・発表者の意見を的確に聞き、考えを理解する。	・各グループの代表が発表する。  ・各発表者の意見と根拠を聞き分け、疑問点や自分の意見をまとめる。	「話す・聞く能力」  「話す・聞く能力」	行動の観察  ワークシートの記述の点検

4	・発表を録画したビデオの視聴を通して発表の際の表現の工夫について理解する。	・前時に録画したビデオを用いて、各発表者の発表を相互評価する。	「知識・理解」	ワークシートの記述の分析
---	---------------------------------------	---------------------------------	---------	--------------

「関心・意欲・態度」は、1時間目に位置付けているが、単元全体を通してその持続や変化のありようを継続的にみていくことも大切である。

#### 4 観点別評価の進め方

##### (1) 各時間の指導と評価の実際

〔第1時〕

本時の目標

- ア 単元の目標を理解し、自分の考えをもつ。
- イ 聞き手を意識した発表を行うための構想を練る。

本時の評価規準及び評価方法

- ア 「関心・意欲・態度」 目的や場に応じて、表現を工夫して自分の考えを話そうとしている。(行動の観察、ワークシートの記述の点検)
- イ 「話す・聞く能力」 情報を整理して自分の考えをもっている。(ワークシートの記述の点検)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">ア 問題点を見付ける</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をもとに、発表の目的や意義について全体で確認する。</li> <li>・5～6人のグループを作り、資料を分析(根拠を明らかにしながら読み取れることを書き出す)して問題点を見付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民科や家庭科の教科書など、身近にある資料を活用させる。</li> <li>・自分なりの問題意識をもって取り組めるような資料を選択して準備する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【資料例】</p> <p>「国内のインターネット利用者数の推移」 「インターネットの利用内容」のグラフ 『インターネット白書2002』</p> </div>	<p>「関心・意欲・態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の目的や意義が分かっているか、問題点を見付けようとしているかを、授業中に机間指導をしながら、生徒の活動状況を観察したり、「話す・聞く能力」を評価する際に点検する資料分析表の記述を参考にしたりすることで評価する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>問題点を見付けようとしていない生徒には、何のためにこの活動をしているのかを改めて意識させるようにする。</p> </div> <p>ゴシック体は、評価の方法を示す。以下同じ。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">イ 自分の考えをまとめる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見付けた問題点について自分の考え(そのことについてどう思うか、また、どのようにしたらよいか)をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の内容や数値を根拠にしながら自分の考えを資料分析表にまとめさせる。</li> <li>・根拠のある考えをもてるようにする。</li> <li>・個人で資料分析表を作った後にグループ学習に移らせる。</li> </ul>	<p>「話す・聞く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を分析することができたか、そこから問題点を見付けることができたか、そのことについて自分なりの考えをまとめることができたかを、授業中に机間指導をしながら資料分析表の記述を点検することで評価する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>自分の考えをまとめることができない生徒には、資料から読み取れる具体例を示し、そのことについてまとめてみるよう助言する。</p> </div>

〔第2時〕

本時の目標

- ア 聞き手に分かりやすい発表内容について考える。
- イ 聞き手を意識した発表の方法について考える。

本時の評価規準及び評価方法

- ア「話す・聞く能力」 情報を整理して自分の考えをもっている。(行動の観察)
- イ「話す・聞く能力」 自分の意見を筋道立てて述べている。(行動の観察, ワークシートの記述の分析)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 発表メモを作成する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で、意見が根拠に基づいているか確認し合う。</li> <li>・根拠に基づいた発表とするために、組立てや表現について話し合い、発表メモを作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の意見や根拠の補強をさせる。</li> <li>・聞き手に分かりやすい発表の構成や表現について考えさせる。</li> <li>・グループ内で話し合うことで、相手意識を高め、根拠に基づく内容とするためにはどうしたらよいかを考えさせる。</li> </ul>	<p>「話す・聞く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見が、根拠に基づいた、分かりやすいものとなっているかを、授業中に話合いの様子を観察することで評価する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>意見が根拠に基づいていない生徒には、資料を読み取った内容を分類し、意見と結び付けるように助言する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>イ 発表のリハーサルをする</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手に分かりやすいように、必要に応じてグラフや図などの補助資料を作成しながら、論理的に意見を述べる準備をする。</li> <li>・グループ内で発表メモを使ったリハーサルを行い、聞き手を意識した効果的な発表について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手によく伝えるためには、どのような資料を使えばよいのかなどに気付かせる。</li> <li>・グループ内でリハーサルを行い、全員が発表する機会を得られるようにする。</li> </ul>	<p>「話す・聞く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋道立った発表をするための工夫がなされているかを、グループでのリハーサルの様子を観察したり、授業後に、提出された発表メモの記述を分析したりすることで評価する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>筋道立った発表の構想を練ることができない生徒に対しては、考えの順序をたどるよう助言したり、発表の型を示したりする。</p> <p style="text-align: center;">----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>効果的な発表ができない生徒には、どのような話し方の時に、聞き手が反応(うなずきや表情など)しているかを観察しながら発表するよう助言する。</p>

〔第3時〕

本時の目標

- ア 聞き手を意識した分かりやすい発表をする。
- イ 発表者の意見を的確に聞き、考えを理解する。

本時の評価規準及び評価方法

- ア「話す・聞く能力」 相手に分かりやすく話す工夫をしている。(行動の観察)
- イ「話す・聞く能力」 発表者の意見を的確に聞いている。(ワークシートの記述の点検)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div data-bbox="220 297 432 389" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 代表が発表する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの代表が発表する。発表者は発表メモを用い、聞き手を意識した発表をする。</li> </ul> <div data-bbox="220 748 432 813" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>イ 発表を聞く</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各発表者の意見と根拠を聞き分けて、聞き取りメモに内容や疑問点、自分の意見をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表前に、相互評価表にある評価のポイントを参考にしながら、発表及び聞き取りのポイントを理解させる。</li> <li>・なるべく発表メモを見ないようにしながら発表させる。</li> <li>・発表のための資料を効果的に使うようにさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取りメモに記入しながら聞くようにさせる。</li> </ul>	<p>「話す・聞く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の論理性に着目して、発表内容の構成や資料の活用の工夫をしているかを、授業中に発表を観察することで評価する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>準備した資料を効果的に利用できない生徒については、発表の途中でタイミングを見計らって、利用について助言する。</p> </div> <p>「話す・聞く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容を的確に聞き取り、発表者の考えを理解しているかどうかを、授業後に聞き取りメモの記述を点検することで評価する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>聞き取りがうまくできていない生徒には、キーワードと考えられる語をとらえてメモするように助言する。</p> </div>

この時間における発表は代表のみが行うので、生徒全員の評価結果は得ることができない。そこで、この発表については、他の单元における他の生徒の発表とともに、「相手に分かりやすく話す工夫をしている。」という評価規準でまとめて評価することにし、ここでは、別に記録を残しておくことにする（「6 留意点」を参照）。

〔第4時〕

本時の目標

ア 発表を録画したビデオの視聴を通して発表の際の表現の工夫について理解する。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「知識・理解」 声の大きさ・発声・話の速度・強弱、身振り手振り・姿勢、言葉遣いなどの発表の方法について理解している。（ワークシートの記述の分析）

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div data-bbox="220 1664 432 1756" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 発表を相互評価する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に録画したビデオを用いて、各発表者の発表を相互評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・録画ビデオを視聴して、声の大きさや間の取り方など表現の工夫についての相互評価を行わせる。</li> <li>・学習の過程で作成したワークシートを見直しながら考えさせる。</li> <li>・相手に分かりやすく伝えるためには、声の大きさや速度、身振り手振りなど話し</li> </ul>	<p>「知識・理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の工夫について理解しているかを、授業後に相互評価表の記述内容を分析することで評価する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>表現の技法に気付かない生徒には、相互評価表に示された項目に着目するように助言する。</p> </div>

	方にも工夫が必要であることに気付かせる。	----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 音声表現の役割についての理解が不十分な生徒には、本単元で作成した資料を再度見直すように助言する。
--	----------------------	--

(2) 「十分満足できると判断される」状況と評価される具体的な例と「努力を要すると判断される」状況と評価される生徒への指導の手だての例  
関心・意欲・態度

学習活動における具体の評価規準 ( B 「おおむね満足できると判断される」状況 )	A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の [ キーワード ] とその具体的な姿の例 C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例
目的や場に応じて、表現を工夫して自分の考えを話そうとしている。	A [ 積極的な活動 ] 発表の意義をよく理解し、積極的にグループ活動に参加して話そうとしている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 相手意識をもち続けることが難しい生徒については、何のために、だれに対して話すのかという意識をもつことの大切さを継続的に指導する。

話す・聞く能力

学習活動における具体の評価規準 ( B 「おおむね満足できると判断される」状況 )	A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の [ キーワード ] とその具体的な姿の例 C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例
情報を整理して自分の考えをもっている。	A [ 新たな情報の収集、整理 ] 与えられた情報を的確に選択し整理して、それをもとに新たな情報を収集、整理しながら自分の考えをまとめている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 目的に応じた情報を整理することのできない生徒については、集めた情報を内容などによって分類し、箇条書きに整理してみるよう助言する。
自分の意見を筋道立てて述べている。	A [ ふさわしい資料の作成と活用 ] 自分の意見を相手によく伝えるために、ふさわしい資料を作成し、それを活用した筋道立った発表となっている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 自分の意見を筋道立てて話すことができない生徒については、発表の型を活用するよう助言したり、例えば「書くこと」の「自分の考えを小論文にまとめる」などの単元でも意識的に指導したりする。
発表者の意見を的確に聞いている。	A [ 批判的な聞き取り ] 話し手の考えの流れをたどりながら、意見の根拠や論理性を批判的に聞き取り、疑問点をもったり、確かめたい事柄をもったりすることを通して、自分の考えを深めている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 話し手の意見を的確に聞き取ることでできない生徒については、話の流れをたどるためにメモを取る習慣を身に付けるように助言し、そのメモから論理をたどるように指導する。

知識・理解

<p>学習活動における具体の評価規準 ( B 「おおむね満足できると判断される」状況 )</p>	<p>A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の [ キーワード ] とその具体的な姿の例 C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例</p>
<p>声の大きさ・発声・話の速度・強弱，身振り手振り・姿勢，言葉遣いなどの発表の方法について理解している。</p>	<p>A [ 表現技法の効果的な活用 ] 様々な表現技法が相手に分かりやすく伝えるために役立つことを理解して，発表の際に効果的に活用することができる。 ----- C の生徒への指導の手だての例 ----- 表現技法を適切に理解していない生徒については，話し方に強弱を付けたたり，身振り手振りなどを取り入れた発表を具体例として示すことで工夫を促すとともに，継続的に指導し，適宜，随時に評価するようにする。</p>

「努力を要すると判断される」状況（C）と評価された生徒への指導の手だては，その時間でなすべきこと，単元中でなすべきこと，単元を超えてなすべきことの各視点が必要となる。そこで，「(1) 各時間の指導と評価の実際」における手だては，時間中及び単元中で，ねらいとしている言語能力が確実に身に付くような指導，助言を中心としている。一方，「(2) 『十分満足できると判断される』状況と評価される具体的な例と『努力を要すると判断される』状況と評価される生徒への指導の手だての例」では，単元終了後も単元でねらいとした言語能力を身に付けるべく継続して努力できるような手だても含めている。

5 観点別評価の総括

(1) 総括についての考え方

この単元では，「関心・意欲・態度」，「話す・聞く能力」，「知識・理解」の3つの観点で，合計5つの学習活動における具体の評価規準を設定している。この評価規準を踏まえて各時間の評価がなされ，その積み重ねで単元としての評価が総括される。そこで，各時間の評価が，単元の評価の総括につながり，指導者の負担も重くないような評価表を例として次ページに示す。なお，この外にも，単元における観点別評価の総括については様々な考え方や方法があると思われるので，各学校において工夫することが望まれる。

(2) 評価表例について

次ページに掲げた評価表例は，各生徒が単元の目標に照らして「おおむね満足できると判断される」状況（B）になったと評価される時点で，各観点の評価規準の左側のB欄に 印を記入するように作成してある。さらに，質的な高まりや深まりが見られて「十分満足できると判断される」状況（A）と評価した場合には，右側のA欄に 印を記入する。各観点の評価の欄には，本単元における観点ごとの評価を総括したものを記入する。また，特記すべき事項の欄は，指導者が特に気付いた点などをメモする際に用いる。

なお，2時間にわたって同一の評価規準で評価する際には，1時間目の評価はチェック程度にとどめ，2時間目の実現状況を見てから 印を記入するようにする。

(3) 総括の具体的な方法について

単元における総括においては，原則として，A，B，Cの数の過半数でその評価を決めることになる。例えば，ある観点で4つの評価規準がある場合，「A，A，A，B」であれば「A」となるし，「A，B，A，B」であれば「B」となる。また，「A，C，B，C」の場合は，「A，C」を「B，B」と読みかえる操作を行い「B」と評価する。

なお，重み付けをする場合には，その重みに応じて評価することになる。例えば，「A，B，A，B」であっても，3つ目の評価規準が2倍の重みであれば，ここでの評価は「A」となる。

この単元では，単元の目標「(イ)自分の考えをもち，聞き手に理解してもらえよう論理的に話す。」の後段の「論理的に話す」に重点を置き，「話す・聞く能力」の評価規準「自分の意見を筋道立てて述べている。」に2倍の重みを付けて単元の評価を総括した。

そこで，2番の生徒は，の評価規準について「十分満足できると判断される」状況（A）と評価されているので，「A」が過半数を超え，総括でも「A」となっている。一方，1番の生徒は，重みを付けているの評価規準が「おおむね満足できると判断される」状況（B）にとどまり「A」が過半数を超えず，総括は「B」となっている。

(4) 継続的な指導について

出席番号3番の生徒は，「話す・聞く能力」が「努力を要すると判断される」状況（C）と評価さ

れている。このような生徒については、「4 観点別評価の進め方」の(2)に掲げた「Cの生徒への指導の手だての例」のような手だてを講じ、この単元の終了後も意図的、継続的に指導を行うことが大切である。

【評価表例】

単元名：グラフやデータを読み取って、自分の意見を発表する

		関心・意欲・態度		話す・聞く能力						知識・理解		特記すべき事項
		評価規準	評価	評価規準						評価規準	評価	
番号	氏名	「関心・意欲・態度」 目的や場に応じて、表現を工夫して自分の考えを話そうとしている。		「話す・聞く能力」 情報を整理して自分の考えをもっている。	「話す・聞く能力」 自分の意見を筋道立てて述べている。  2倍の重み	「話す・聞く能力」 発表者の意見を的確に聞いている。				「知識・理解」 声の大きさ・発声・話の速度・強弱、身振り手振り・姿勢、言葉遣いなどの発表の方法について理解している。		
1	山一子		B						B		A	
2	上次男		A						A		B	
3	田三美		B						C		B	
40	辺四郎		B						B		B	

6 留意点

- ・ 【単元の評価規準】に示された「自分の考えをもって論理的に意見を述べている」を受け、「2 学習活動における具体的評価規準」では、授業の実際を考慮して「聞くこと」の評価規準も設定した。なぜなら、「話すこと」と「聞くこと」は表裏一体であり、「聞くこと」についての指導も適時に行うことが大切だからである。
- ・ 本事例では、発表は各グループの代表者のみが行っている。それは、限られた時間を有効に活用するため単元構成をコンパクトにし、多様な学習活動が展開できるようにしたためである。「話すこと・聞くこと」の学習指導の評価は、全員が発表する機会がないと評価ができないと考えがちであるが、この事例で示したように、全員が発表しなくても、「グループ活動」の観察や、「発表メモ」、「相互評価表」の記述の点検や分析を通して、単元の目標の実現状況を、評価規準をもとに適切に評価することができる。  
 なお、生徒に実際に発表させることも大切なので、複数の単元にまたがる同一の評価規準を設定し、すべての生徒の話す能力を測るように工夫することも必要である。
- ・ ワークシートのうち「資料分析表」「発表メモ」については、項目を板書してノートにまとめるようにすることも可能である。

7 参考資料

以下に、この単元で用いたワークシートを掲げる。

【資料分析表】(第1時)

原版はA4判

年 組 番 ( )

\*タイトル

(1) 資料から読みとれること

⋮

(2) なぜそうなるか考えられること・(1)の問題点・感想

⋮

(3) 解決のために提案したいこと

⋮

資料貼付欄

【発表メモ】(第2時)

原版はA4判

年 組 番 ( )

\*タイトル

\* 発表の流れ

流 れ	内 容	発 言	表現技法についてなど
導 入	1 ⋮	(例) 私はこのグラフから( )について考えました。	
中	1 ⋮	(例) そこでこの表を見てください。	(例) 黒板の表を指さしながら説明する。
ま と め	1 ⋮	(例) これで私の発表を終わります。	

年 組 番 ( )

*発表者	*タイトル
------	-------

\* 発表の 内容 について - 発表を聞きながら -

	発表の中心話題	意 見	根 拠	質問したいこと	話し方について
1 ⋮					

年 組 番 ( )

*発表者	*タイトル
------	-------

\* 発表の 技法 について - ビデオを見ながら -

	項 目	チェック	コメント
1	声の大きさはどうか	1    2    3    4 — — — —	
2	発声はどうか	1    2    3    4 — — — —	
3	話の速さはどうか	1    2    3    4 — — — —	
4	目線の配りはどうか	1    2    3    4 — — — —	
5	話の強弱はどうか	1    2    3    4 — — — —	
6	聞き手の反応の確認	1    2    3    4 — — — —	
7	身振り手振りはどうか	1    2    3    4 — — — —	
8	話す姿勢はどうか	1    2    3    4 — — — —	
9	言葉遣いはどうか	1    2    3    4 — — — —	

\* 1 よい 2 どちらかといえばよい 3 どちらかといえばよくない 4 よくない

## 国語総合

ここでは、「書くこと」「読むこと」の各1事例を紹介する。

### 「書くこと」

単元名 「意見文（投書文）を書く」（5時間）

#### 1 単元の目標

- (1) 相手や目的に応じ題材を選び、伝えようとする意志をもって意見をまとめようとする態度を身に付ける。（関心・意欲・態度）
- (2) 自分の意見を相手に納得させるために、内容を明確に示した、しっかりした組立ての文章を書く。（書く能力）
- (3) 意見文を書くのに役立つ考察の型や論理的な文章展開の型を理解する。（知識・理解）

参考：単元の目標を設定するために

次の ， は、内容のまとめりごとの学習指導要領の内容（指導事項）を重点化し、単元の目標を設定していく道筋を示している。

内容のまとめりごとの学習指導要領の内容とその評価規準

#### 【学習指導要領の内容】

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと。
- イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること。
  - ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

#### 【評価規準】

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
・ 相手や目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめたり、効果的な表現を考えて書いたりしようとしている。	・ 相手や目的に応じて題材を選んでいる。 ・ 相手や目的に応じて効果的な表現を考えて書いている。 ・ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめている。 ・ 書くことに役立てるために、優れた表現に接してその条件を考えている。 ・ 優れた表現を自分の表現に役立てている。	・ 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。 ・ 主な常用漢字について、適切な使い方を身に付けている。 ・ 国語の成り立ちや特質、言語の役割などについて理解している。

この単元で取り上げる学習指導要領の内容とその評価規準

#### 【学習指導要領の内容】

- イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。

#### 【単元の評価規準】

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
・ 相手や目的に応じて題材を選び、自分の考えを文章にまとめようとしている。	・ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめている。	・ 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記などを理解し、語彙を豊かに身に付けている。

ここでは、 に掲げたもののうち、この単元で具体的に取り上げる指導事項を含む学習指導要領の内容とその評価規準のみを掲げた。

## 2 学習活動における具体の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
目的にふさわしい題材を選び、伝えようとする意志をもって、意見をまとめようとしている。	自分の意見をまとめ、それを支える論拠を明確にしている。 自分の意見を明確に示した、しっかりした組立ての文章を書いている。	意見文を書くのに必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解している。

ここでは、1の参考 に掲げた【単元の評価規準】をもとに、この単元における具体的な評価規準を設定して示している。

## 3 指導と評価の計画

時間	各時間の目標	学習活動	学習活動における具体の評価規準との関連	評価方法等
1	・投書する目的で意見文を書くために、新聞の投書欄の文章表現の特徴を知る。	・あらかじめ準備しておいた新聞の投書を整理する。	「知識・理解」	ワークシートの記述の点検
2	・身近な生活の中から意見文を書くための論点（問題提起したいこと）を見付ける。	・意見文を書くために、「今、気になること」について論点を見付ける。	「関心・意欲・態度」	ワークシートの記述の点検
3	・自分の意見とそれを支える論拠を、視点を整理して明確にする。	・論点に沿って、結論部に当たる自分の意見をまとめる。 ・自分の意見を支える論拠を明確にする。	「書く能力」	ワークシートの記述の点検・分析
4	・文章展開の型を利用して意見をまとめる。	・文章展開の型を利用して意見文を書く。 ・自分の書いた意見文を評価する。	「知識・理解」	ワークシートの記述の点検
5	・自己評価・相互評価の結果を推敲に生かし、説得力ある意見文をまとめる。	・自己評価の結果や相互評価による他者の意見や反論をもとに、より説得力ある意見文を完成させる。	「書く能力」	作品の分析

「関心・意欲・態度」は、2時間目に位置付けているが、単元全体を通してその持続や変化のありようを継続的にみていくことも大切である。

## 4 観点別評価の進め方

### (1) 各時間の指導と評価の実際

〔第1時〕

本時の目標

ア 投書する目的で意見文を書くために、新聞の投書欄の文章表現の特徴を知る。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「知識・理解」 意見文を書くのに必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解している。(ワークシートの記述の点検)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 投書文の表現を整理する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ準備しておいた新聞の投書から印象に残ったものを1つ選び、5つの項目で整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・投書見本は論拠がよく分かるものを選ぶ。また、比較できるように同じ話題で異年齢のものや反対意見のものも選ぶ。</li> <li>・整理する観点は、(ア)書いた人物、(イ)取り上げられている話題、(ウ)書かれている意見、(エ)意見を支える体験や事実、(オ)構成の5項目とする。</li> </ul>	<p>「知識・理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文を書くのに必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解しているかを、授業中に机間指導をしながら投書整理シートに書かれた5項目の記述を点検することで評価する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">整理できない生徒には、具体例を示し、個別に助言を与える。</p>

〔第2時〕

本時の目標

ア 身近な生活の中から意見文を書くための論点（問題提起したいこと）を見付ける。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「関心・意欲・態度」 目的にふさわしい題材を選び、伝えようとする意志をもって、意見をまとめようとしている。（ワークシートの記述の点検）

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ア 論点を見付ける</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見文を書くために、「今、気になること」についてブレンストーミング、webマップ作成をしながら題材を選ぶ。</li> <li>・選んだ題材をもとに相手に伝えたい論点（問題提起したいこと）を見付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「今、気になること」をいくつかワークシートに書き込ませる。</li> <li>・何人かの生徒に板書させる。</li> <li>・板書されたものに関連することをワークシートに書き込ませる。</li> <li>・何人かの生徒に板書させる。</li> <li>・板書されたものを参考しながら、ワークシートに書き込まれたものをグループ分けすることによってwebマップを完成させ、題材を選ばせる。</li> <li>・webマップを見ながら自分が書きたい論点を見付けさせる。</li> </ul>	<p>「関心・意欲・態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的にふさわしい題材を選び、伝えようとする意志をもって、意見をまとめようとしているかを、ブレンストーミングされたものやwebマップの記述を授業中に点検したり、授業後に提出させて点検したりすることで評価する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">ブレンストーミングのできない生徒には、ワークシートを交換させたり、板書されたものを参考にさせたりすることで作業を進めさせる。</p> <p style="text-align: center;">----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">論点が決まれない生徒には、ワークシートを交換することで、選んだ題材が新聞に投書する意見文として妥当かどうか考えさせる。</p>

〔第3時〕

本時の目標

ア 自分の意見とそれを支える論拠を、視点を整理して明確にする。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「書く能力」 自分の意見をまとめ、それを支える論拠を明確にしている。(ワークシートの記述の点検・分析)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div data-bbox="220 394 432 488" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 自分の意見をまとめる</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定めた論点に基づいて自分の意見をまとめる。</li> <li>・ 論点に沿って、結論部に当たる自分の意見をまとめ、意見を支える理由を具体例を添えて書く。</li> </ul> <div data-bbox="220 909 432 1003" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>イ 論拠を明確にする</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見を支える論拠が明確であるか検討する。</li> <li>・ 論拠がより明確になるよう理由を書き直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投書見本を参考に問題提起したいこととはどのようなことかを考えさせる。</li> <li>・ 意見文作成シート1に、読み手に伝わるように簡潔に書かせる。</li> <li>・ 意見欄には意見のみを書くように指導する。</li> <li>・ 理由は、自分が見て感じたり、思ったり、考えたりしたことを踏まえて書かせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理由に添えられた具体例が適切であるか投書見本を整理したものを参考にして考察させる。</li> <li>・ 論拠がより明確になるように、理由を理由清書シートに書き直させて、意見文作成シート1の上に貼付させる。</li> <li>・ 必要に応じて意見を書き直させる。</li> </ul>	<p>「書く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見と理由をはっきり区別しているかを、意見文作成シート1の記述を授業中に机間指導をしながら点検し、「おおむね満足できる」と判断した生徒は、理由清書シートの記述へと進ませる。</li> </ul> <div data-bbox="863 703 1406 882" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>意見と理由とが区別されていない生徒には、「だから」「なので」という理由を表す言葉に注意させるなどの助言を与えて書き直させる。</p> </div> <p>「書く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の意見を支える論拠を明確にしているかを、授業後に提出させた、意見文作成シート1の理由欄と理由清書シートの記述を分析することで評価する。</li> </ul> <div data-bbox="863 1189 1406 1335" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>具体例を見付けられない生徒には、なぜそのような意見をもったのか質問することで、論拠となる具体例を見付けさせる。</p> </div>

〔第4時〕

本時の目標

ア 文章展開の型を利用して意見をまとめる。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「知識・理解」 意見文を書くのに必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解している。(ワークシートの記述の点検)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div data-bbox="220 1825 432 1919" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 文章展開の型を利用する</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章展開の型を利用して意見文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 序論・本論・結論の型を紹介する。その際、序論部分では話題提示型、問題提起型、意見提示型の3つの例を、また、結論部分では感</li> </ul>	<p>「知識・理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投書する意見文を書くのに必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解しているかどうかを、意見文作成シート2の記述を授業中に机間指導をしながら点検したり、授業後に提</li> </ul>

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">イ 自己評価する</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の書いた意見を自己評価する。</li> </ul>	<p>想型，思索型，解決型の3つの例を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本論部分では具体例を挙げて考察し，判断を下す例を示す。</li> <li>意見文作成シート2に序論部分100字・本論部分300字・結論部分50字程度で書かせる。</li> </ul> <p>・評価の観点とは，(ア)意見が明確であるか，(イ)相手意識をもっているか，(ウ)意見を支える事実や体験が明確に示されているか，(エ)自分の経験をもとに書かれているか，(オ)文章展開の型を利用しているか，という5項目とする。</p>	<p>出させて点検したりすることで評価する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>文章展開の型に沿って書いていない生徒には，実例を見せることで型を理解させる。</p> </div>
--	--	---

〔第5時〕

本時の目標

ア 自己評価・相互評価の結果を推敲に生かし，説得力ある意見文をまとめる。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「書く能力」 自分の意見を明確に示した，しっかりした組立ての文章を書いている。

(作品の分析)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">ア 説得力ある意見文を完成する</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価の結果や相互評価による他者の意見や反論をもとに，より説得力ある意見文を完成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文作成シート2を交換させ相互評価することで，意見がより明確に示されるように，また，より説得力をもつように書き直させる。</li> <li>清書用原稿用紙に清書させる。</li> </ul>	<p>「書く能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を明確に示した，しっかりした組立ての文章を書いているかを，授業後に提出させた意見文を分析することで評価する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>しっかりした組立ての文章が書けない生徒には，再度意見文作成シート2に戻って検討させる。</p> </div>

(2) 「十分満足できると判断される」状況と評価される具体的な例と「努力を要すると判断される」状況と評価される生徒への指導の手だての例

関心・意欲・態度

<p>学習活動における具体的評価規準 (B 「おおむね満足できると判断される」状況)</p>	<p>A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の [ キーワード ] とその具体的な姿の例</p> <p>C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例</p>
<p>目的にふさわしい題材を選び，伝えようとする意志をもって，</p>	<p>A [ 数多くの論拠，問題意識の整理 ]</p> <p>論拠を数多く取り上げることで問題意識を整理し，自分の</p>

意見をまとめようとしている。	意見を明確にして書こうとしている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 考えを広げることのできない生徒については、他者の考えを参考にさせたり、教師が具体的な助言を与えたりする。
----------------	---

書く能力

学習活動における具体的評価規準（B「おおむね満足できると判断される」状況）	A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕とその具体的な姿の例 C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例
自分の意見をまとめ、それを支える論拠を明確にしている。	A [ 普遍的な論拠，意見の分かりやすさ ] 多くの人が納得できる普遍的な論拠を工夫して示し，自分の意見を分かりやすくまとめている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 論拠を明確にできていない生徒については，なぜそのような意見をもったのか質問することで，論拠を考えさせたり，以後に実施予定の単元，例えば「自分の意見を小論文にまとめる」で再度指導したりする。
自分の意見を明確に示した，しっかりした組立ての文章を書いている。	A [ 読み手への配慮，ふさわしい組立て ] 読み手を配慮して，自分の意見を効果的に伝えるのにふさわしい，しっかりした組立ての文章を書いている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- しっかりした組立ての文章が書けない生徒については，モデルを活用するよう助言する。

知識・理解

学習活動における具体的評価規準（B「おおむね満足できると判断される」状況）	A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕とその具体的な姿の例 C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例
意見文を書くのに必要な考察の型や論理的な文章展開の型を理解している。	A [ 型の効果的な活用 ] 意見文を書くのにふさわしい考察の型や文章展開の型を理解し，それを自分の文章に効果的に取り入れている。 ----- Cの生徒への指導の手だての例 ----- 型の特徴を理解していない生徒については，考察の型や文章展開の型の違いが分かるように助言を与えたり，実例を見せたりすることで，型を理解させる。

「努力を要すると判断される」状況（C）と評価された生徒への指導の手だては，その時間でなすべきこと，単元中でなすべきこと，単元を超えてなすべきことの各視点が必要となる。そこで，「(1) 各時間の指導と評価の実際」における手だては，時間中及び単元中で，ねらいとしている言語能力が確実に身に付くような指導，助言を中心としている。一方，「(2) 『十分満足できると判断される』状況と評価される具体的な例と『努力を要すると判断される』状況と評価される生徒への指導の手だての例」では，単元終了後も単元でねらいとした言語能力を身に付けるべく継続して努力できるような手だても含めている。

5 観点別評価の総括

「国語表現」の事例を参照。

6 留意点

- 本単元は5時間扱いとし，ブレイクタイムの時間を第2時に設けているが，ブレイクタイムの経験の豊富な集団では必ずしも1時間特設する必要はない。
- 本単元の実施時期は夏休み前を想定しているが，「総合的な学習の時間」などで実施されるレポート作成，記録作成などの実施時期と関連させて効果的な時期に行うこともできる。

7 参考資料

以下に、この単元で用いたワークシートを掲げる。

【投書整理シート】(第1時)

原版はA4判

【投書整理シート】[新聞投書の文章表現の特徴を知る]

年 組 番 氏名

検印

- 1 投書を切り抜いて貼る

投書を貼付

- 2 投書を書いた人物について (年齢・性別など)

60歳代 女性

- 3 選んだ投書はどのような話題のものであったか。(話題)

勧誘を断る言葉

- 4 選んだ投書にはどのような意見が書いてあるか。(論点)

電話セールスの勧誘を断るときに、「結構です」は使わない。

- 5 その意見はどのような体験や事実に支えられたものか。(論拠)

夫の会社の同僚が、電話セールスを受けた際、断りに使った「結構です」という言葉を、「それは承諾の意味だ」と脅され、仕事にも支障を来すほどだったという、身近な人の体験談。

- 6 その意見はどのような構成で述べられているか。(構成)

前半に、問題点と見聞きした話を書き、後半にその話から導き出された自分の意見が書いてある。

【ブレインストーミング・webマップシート】[話題を見付ける]

年 組 番 氏名

検印

ブレインストーミング 「今、気になること」について思い付く言葉をできるだけたくさんワークシートに書き出す。

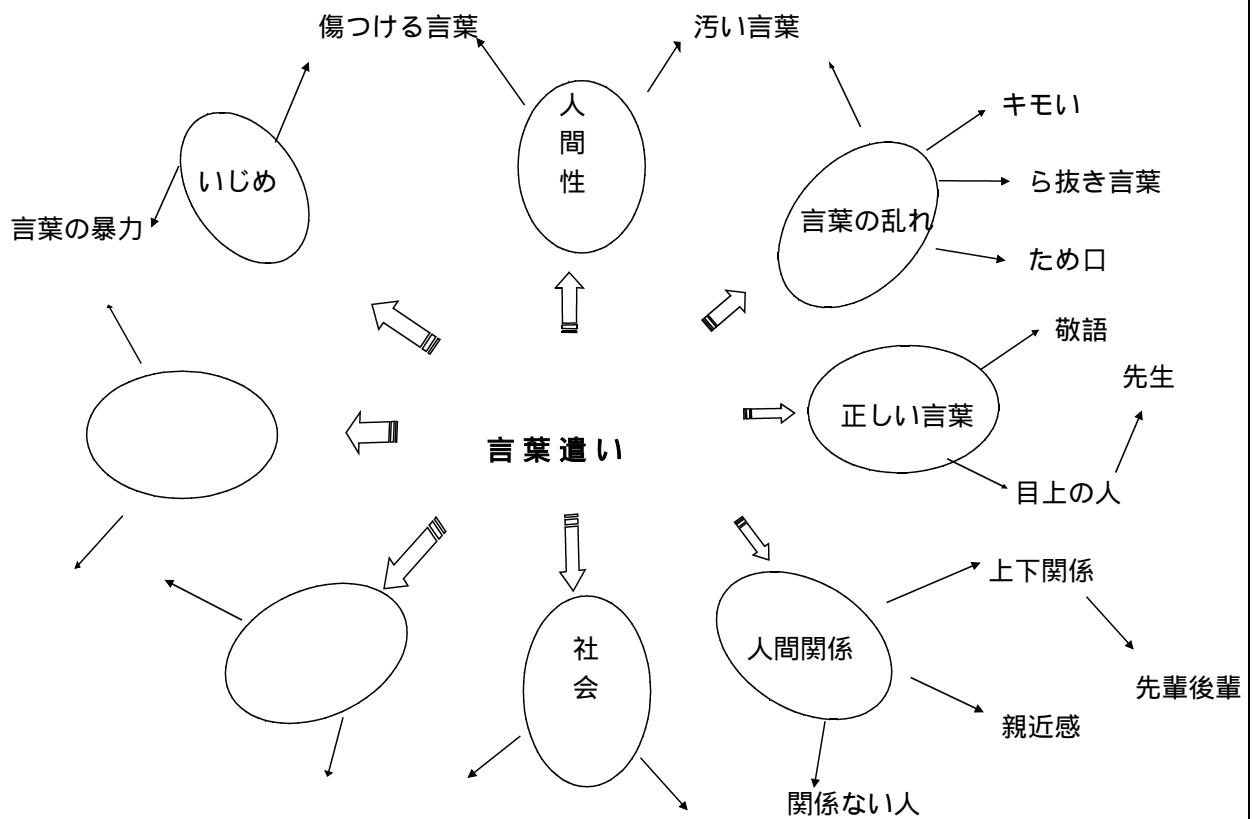
webマップ(関連図) ブレインストーミングで得た言葉を、関連のあるもの同士まとめたり(グルーピング)、放射線状につないだりして、視覚化・体系化する。

ブレインストーミング (個人)

言葉遣い, 言葉の乱れ, 人間性

ブレインストーミング (全体)

学校週五日制, 総合的な学習の時間, 遊び, 友人関係, 情報化社会, 携帯電話, マナー, 病院, 医療事故, 水難事故, ルール, 友情, いじめ, 少年犯罪, 法律, マスコミ, 取材, 家庭教育, 食事, 道徳, 虐待, 暴力, こころ



話題  
言葉遣いについて

【意見文作成シート1】[論点を定めて意見をまとめる]

	年	組	番	氏名	検印
理由 人を傷つけるよ うな言葉を何気なく使 うのを聞いたことが ある。	論点 「問題提起したい点」 若者の言葉遣いの 悪さ 人を傷つけるよう な言葉を使わないよ うにするべき			話題 言葉遣いについて	
(100字程度)				(30字)	
理由 清書 シート 貼付 欄	理由			意見	
	聞	こ	と	こ	最
	馬	気	を	え	近
	鹿	持	ち	よ	若
	し	悪	モ	し	者
	い	い	い	に	の
	と	と	つ	人	言
	の	の	ま	の	葉
	に	に	の	の	遣
					い
					が

【文章展開の型】[文章展開の型を知る]

1 文章展開の基本  
 意見文を書くに当たっては、論理的に表現するためにも、文章展開や構成に気を配らなければならぬ。文章展開の基本は「序論・本論・結論」の三段構成である。各段落の役割と字数のめやすは次のとおりである。

序論 問題提起をするなど、問題の所在を明らかにする。(100字)  
 本論 問題に対する自分の考えの中心となる部分を提示し、論証する。(200字～300字)  
 結論 自分が伝えたい意見をはっきり示して論を締めくくる。(50字～100字)

2 各段落の書き方

- (1) 序論 「話題」を提示したり、「問題」を提起したり、「意見」を提示するなど三つの型がある。
- (2) 本論 自分の意見を支える根拠となる「具体例」を挙げ、「考察」し、「判断」を下す。
- (3) 結論 一般論を述べる「感想型」や問題の所在を説明することによって導き出された意見を述べる「思索型」、問題の所在を明らかにしその解決を図って導き出された意見を述べる「解決型」の三つがある。



「読むこと」

単元名 「人物の心情をとらえながら古典を読む」(4時間)

1 単元の目標

- (1) 人物の心情を想像力を働かせながら読もうとする態度を身に付ける。(関心・意欲・態度)
- (2) 人物の心情をとらえながら古典の文章を読み味わう。(読む能力)
- (3) 古典の表現の特色について理解する。(知識・理解)

参考：単元の目標を設定するために

次の ， は、内容のまとめりごとの学習指導要領の内容(指導事項)を重点化し、単元の目標を設定していく道筋を示している。

内容のまとめりごとの学習指導要領の内容とその評価規準

【学習指導要領の内容】

- ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり，必要に応じて要約したりすること。
- イ 文章を読んで，構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 様々な文章を読んで，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりすること。
- ・ 関連する〔言語事項〕を含む。

【評価規準】

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な文章について，叙述に即して内容を的確に読み取ったり，表現に即して読み味わったりして，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取っている。</li> <li>・ 必要に応じて文章の内容を要約している。</li> <li>・ 文章を読んで 構成を確かめている。</li> <li>・ 文章を読んで，表現の特色をとらえている。</li> <li>・ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わっている。</li> <li>・ 様々な文章を読んで，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かに身に付けている。</li> <li>・ 常用漢字の読みを理解している。</li> <li>・ 文語のきまり，訓読のきまりなどについて理解している。</li> <li>・ 国語の成り立ちや特質，言語の役割などについて理解している。</li> </ul>

この単元で取り上げる学習指導要領の内容とその評価規準

【学習指導要領の内容】

- ウ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わうこと。

【評価規準】

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典の文章を，表現に即して読み味わうことを通して，ものの見方，感じ方，考え方を広げたり深めたりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章に描かれた人物，情景，心情などを表現に即して読み味わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文や文章の組立て，語句の意味，用法及び表記の仕方などを理解し，語彙を豊かに身に付けている。</li> <li>・ 文語のきまり，訓読のきまりなどについて理解している。</li> </ul>

ここでは， に掲げたもののうち，この単元で具体的に取り上げる指導事項を含む学習指導要領の内容とその評価規準のみを掲げた。

## 2 学習活動における具体的評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
人物の心情や場面を想像力を働かせながら読もうとしている。	文章に描かれた人物の生き方，ものの見方や考え方，人物相互の関係をとらえている。	文語体と口語体，韻文体と散文体などといった表現や文体の特色について理解している。

ここでは，1の参考 に掲げた【単元の評価規準】をもとに，この単元における具体的な評価規準を設定して示している。

## 3 指導と評価の計画

時間	各時間の目標	学習活動	学習活動における具体的評価規準との関連	評価方法等の関連
1	・「あづさ弓」を読んで，表現の特色に気付く。	・歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読する。 ・文語体と口語体の違いや，和歌の修辞法などに注意しながら，教材文を視写する。 ・意味が分からない語句を抜き出す。	「知識・理解」	行動の観察 ワークシートの記述の点検
2	・内容の大体を理解し，登場人物の心情をとらえる。	・現代語訳を利用して教材文の内容の大体を把握する。 ・語句の意味を確認する。 ・登場する男女の心的状況などについて考察しながら教材文を読む。	「関心・意欲・態度」	ワークシートの記述の点検・分析
3	・各場面にあらわれている登場人物の心情を表現に即して把握する。	・各場面にあらわれている登場人物の心情を把握しながら教材文を読む。	「読む能力」 「知識・理解」	ワークシートの記述の点検・分析
4	・話合いを通して読み深める。	・人物の生き方や考え方などについて，グループで話し合う。 ・他のグループの話合いの内容を確認する。	「読む能力」	行動の観察 ワークシートの記述の分析

「関心・意欲・態度」は，2時間目に位置付けているが，単元全体を通してその持続や変化のありようを継続的にみていくことも大切である。

## 4 観点別評価の進め方

### (1) 各時間の指導と評価の実際

〔第1時〕

本時の目標

ア 「あづさ弓」を読んで，表現の特色に気付く。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「知識・理解」 文語体と口語体，韻文体と散文体などといった表現や文体の特色について理解している。（行動の観察，ワークシートの記述の点検）

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
ア 音読や視写をする		

<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いなどに注意をしながら音読する。</li> <li>・文語体と口語体の違いや、和歌の修辭法などに注意をしながら、教材文を視写する。</li> <li>・意味が不明な語句を抜き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あづさ弓」の教材文を範読した後に音読させる。(指名読み及び全員の微音読)</li> <li>・教材文をワークシート(課題一)に視写させる。</li> <li>・視写して気付いたことをワークシート(課題二)に記入させる。</li> <li>・意味が分からない語句をワークシート(課題三)に抜き出させる。</li> </ul>	<p>「知識・理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いを身に付けているかを、音読の様子を観察することで評価する。</li> </ul> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>歴史的仮名遣いが身に付いていない生徒には、音読の際に正しい読み方を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文語体と口語体の違いや、韻文体と散文体などといった表現や文体の特色に注意して正確に視写しているかを、視写の状況の観察や、授業後に提出させたワークシートの記述を点検することで評価する。</li> </ul> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>文語体の特徴に気付いていない生徒には、活用の違いなど口語体との相違点を、文章の記述を踏まえ具体的に示す。</p>
---	--	---

〔第2時〕

本時の目標

ア 内容の大体を理解し、登場人物の心情をとらえる。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「関心・意欲・態度」 人物の心情や場面を想像力を働かせながら読もうとしている。

(ワークシートの記述の点検・分析)

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ア 内容の大体を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代語訳を利用して、教材文の内容の大体を把握する。</li> <li>・抜き出した語句の意味を、現代語訳などを利用して確認する。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">イ 人物の心情をとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場する男女の心的状況、ものの考え方、生き方、人物相互の関係などについて考察しながら教材文を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらすじと、初発の感想をワークシート(課題四)に記入させる。</li> <li>・不明な語句の意味を、ワークシート(課題三)に記入させる。</li> <li>・(ア)宮仕えに行く時の男女の気持ち、(イ)別の男の求婚に応じた女の気持ち、(ウ)もとの男が帰ってきた時の女の気持ち、(エ)和歌を詠んで戸を開けなかった女の気持ち、(オ)和歌を詠んで立ち去った男の気持ちなどについての自分の考えを、ワークシート(課題一)にまとめさせる。</li> </ul>	<p>「関心・意欲・態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれた人物相互の関係をとらえようとしているかを、授業中の机間指導や授業後に提出させたワークシートの記述を点検することで評価する。</li> </ul> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>文章に描かれた人物相互の関係をとらえようとしていない生徒には、人物に注意しながら現代語訳を改めて読むよう指示する。</p> <p>「関心・意欲・態度」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章に描かれた人物の生き方、ものの見方や考え方、人物相互の関係をとらえようとしているかを、授業後に提出させたワークシートの記述内容を分析することで評価する。</li> </ul> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>文章に描かれた人物のものの見方や考え方をとらえようとしていない生徒には、男女それぞれの立場に立って現代語訳を改めて読むよう指示する。</p>

〔第3時〕

本時の目標

ア 各場面にあらわれている登場人物の心情を表現に即して把握する。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「読む能力」 文章に描かれた人物の生き方，ものの見方や考え方，人物相互の関係をとらえている。（ワークシートの記述の点検）

イ 「知識・理解」 文語体と口語体，韻文体と散文体などといった表現や文体の特色について理解している。（ワークシートの記述の分析）

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ア 場面にあらわれている心情を把握する                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>各場面にあらわれている人物の心情を把握しながら教材文を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ア)宮仕えしなかった理由，(イ)男が3年間も帰ってこなかった理由，(ウ)女の和歌を聞きながらも男が立ち去った理由，(エ)女が亡くなる直前に和歌を書き付けた理由など，各場面にあらわれている人物の心情についての自分の考えを，ワークシート（課題二）にまとめさせる。</li> </ul>	<p>「読む能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各場面にあらわれている人物の心情を的確にとらえているかを，ワークシートの記述を授業中に点検したり，授業後に提出させて点検したりすることで評価する。</li> </ul> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>場面にあらわれている人物の心情をとらえることのできない生徒には，現代語訳を利用して，原文を改めて読み返すよう指示する。</p> <p>「知識・理解」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各場面にあらわれている人物の心情を，地の文や和歌のそれぞれの表現の特色を理解して読み取っているかを，授業後に提出させたワークシートの記述内容を分析することで評価する。なお，この際，第2時における記述も参考にする。</li> </ul> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>表現の特色を的確に理解できていない生徒には，特色の具体的な例を示して説明する。</p>

〔第4時〕

本時の目標

ア 話し合いを通して読み深める。

本時の評価規準及び評価方法

ア 「読む能力」 文章に描かれた人物の生き方，ものの見方や考え方，人物相互の関係をとらえている。（行動の観察，ワークシートの記述の点検）

指導と評価の実際

学習活動	指導上の留意点	評価の実際
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     ア 話し合いで読み深める                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場する人物の生き方や考え方などについて，感動したり，共感したり，</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートをグループ内で交換して話し合い，その内容をワークシート（課題一，二）に記入させ</li> </ul>	<p>「読む能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面にあらわれている人物の心情などを，話し合いによって読み深めることができたかを，話し合いの様子（主にその内容）の観察や，話</li> </ul>

<p>疑問に思ったりしたことなどについて、グループで話し合う。</p> <p>・他のグループでの話合いの内容を確認する。</p>	<p>る。</p> <p>・話合いの前後で、人物の心情や、描かれている場面などに関する考察に変化があれば、ワークシート（課題三）に記入させる。</p> <p>・(ア)自分のグループと他のグループとの相違点，(イ)学習を振り返って感じたことなどを，ワークシート（課題四～六）に記入させる。</p>	<p>合いの結果に関するワークシートの記述内容を授業後に分析することで評価する。</p> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>発言の内容が不十分な生徒には，他の生徒の発言内容のうち，自分に欠けているものをメモするよう指示する。</p>
--	---	--

(2) 「十分満足できると判断される」状況と評価される具体的な例と「努力を要すると判断される」状況と評価される生徒への指導の手だての例  
 関心・意欲・態度

<p>学習活動における具体の評価規準（B「おおむね満足できると判断される」状況）</p>	<p>A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕とその具体的な姿の例</p> <p>C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例</p>
<p>人物の心情や場面を想像力を働かせながら読もうとしている。</p>	<p>A [ 古典に対する関心，古典表現についての理解 ]</p> <p>登場人物の心情などを想像力を働かせながら読むことを通して，古典やそこで用いられている表現に対する関心や理解を深めようとしている。</p> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>人物の心情や場面をつかむことが難しい生徒については，本単元以降に行う「読む能力」に関連する単元において，人物の心情や場面をつかみながら文章を読む意欲が持てるよう継続的に指導する。</p>

読む能力

<p>学習活動における具体の評価規準（B「おおむね満足できると判断される」状況）</p>	<p>A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕とその具体的な姿の例</p> <p>C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例</p>
<p>文章に描かれた人物の生き方，ものの見方や考え方，人物相互の関係をとらえている。</p>	<p>A [ 自分たちの生き方との共通点や相違点の考察 ]</p> <p>人物の生き方，ものの見方や考え方，人物相互の関係などを的確に読み取り，現代の自分たちの生き方との共通点や相違点などについて考察している。</p> <p>----- Cの生徒への指導の手だての例 -----</p> <p>人物の生き方，ものの見方や考え方，人物相互の関係などをとらえることのできない生徒については，現代語訳などを利用し，一人の人物に絞って読み取るよう助言する。</p>

知識・理解

<p>学習活動における具体の評価規準（B「おおむね満足できると判断される」状況）</p>	<p>A 「十分満足できると判断される」状況と評価する際の〔キーワード〕とその具体的な姿の例</p> <p>C 「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だての例</p>
<p>文語体と口語体，韻文体と散文体などといった表現や文体の特色について理解している。</p>	<p>A [ 表現効果の的確な理解 ]</p> <p>人物の生き方，ものの見方や考え方を描き出している表現や文体の多様性，和歌の修辞などの表現効果についての的確に理解している。</p>

----- Cの生徒への指導の手だての例 -----  
表現や文体の特色を理解することのできない生徒については、文語文や和歌の特徴などの具体的な例を改めて示すとともに、他の関連する単元においても重ねて指導するようにする。

「努力を要すると判断される」状況（C）と評価された生徒への指導の手だては、その時間でなすべきこと、単元中でなすべきこと、単元を超えてなすべきことの各視点が必要となる。そこで、「(1) 各時間の指導と評価の実際」における手だては、時間中及び単元中で、ねらいとしている言語能力が確実に身に付くような指導、助言を中心としている。一方、「(2) 『十分満足できると判断される』状況と評価される具体的な例と『努力を要すると判断される』状況と評価される生徒への指導の手だての例」では、単元終了後も単元でねらいとした言語能力を身に付けるべく継続して努力できるような手だても含めている。

#### 5 観点別評価の総括

「国語表現」の事例を参照。

#### 6 留意点

- ・ 生徒の実態を踏まえ、単元の配当時間を増やすことにより、生徒が現代語訳を利用することなく、原文から「あづさ弓」の内容を把握する学習活動も可能である。
- ・ 発展的な学習として、学校図書館を活用した「あづさ弓」の時代背景などの調べ学習や、「あづさ弓」以外の『伊勢物語』を幅広く読む活動を取り入れることも可能である。

#### 7 参考資料

以下に、この単元で用いたワークシートを掲げる。  
原版はすべてA4判。



「あづき」読み味わいプリント  
ワークシート

年 組 番 氏 名

( ) 月 ( ) 日  
検 印

一 「あづき」に登場する男女の心情を考えてみよう。

宮仕えに行く時の男女それぞれの気持ちを考えてみよう。

別の男に求婚に応じた女の気持ちを考えてみよう。

もとの男が帰ってきた時の女の気持ちを考えてみよう。

和歌を詠んで戸を開けなかった女の気持ちを考えてみよう。

↑裏面につづく↓

和歌を詠んで立ち去った男の気持ちを考えてみよう。

二 「あづき」の各場面にあらわれている人物の心情を考えてみよう。

男が宮仕えをしなかった理由を考えてみよう。

男が三年間も帰ってこなかった理由を考えてみよう。

女の和歌を聞きながらも男が立ち去った理由を考えてみよう。

女が亡くなる直前に和歌を書きつけた理由を考えてみよう。

# 「あじき弓」読み深めプリント

ワークシート

年 組 番 氏名

( 月 日 )

検 印

一 「ワークシート」をグループ内で交換して読み合い、気がついた点を書いてみよう。

交換した人

「さん

二 「あじき弓」を読んで考えたこと（感動・共感・疑問など）を、グループで話し合ってみよう。

「さんの意見。

「さんの意見。

「さんの意見。

「さんの意見。

▶裏面につづく▶

三 「あじき弓」を読んで考えたこと（感動・共感・疑問など）で、話し合いの前と後で変化した点を書いてみよう。

四 「ワークシート」を他のグループと交換して読み合い、気がついた点を書いてみよう。

交換した人

「さん

五 「あじき弓」を読む学習を振り返って、よかったと思われる点や、工夫すべきだったと思われる点を書いてみよう。

六 「あじき弓」を読む学習の感想を書いてみよう。